

海外安全対策情報平成26年度第1四半期（4～6月）

1. 社会・治安情勢

（１）５月２日～５日、当国北部ウエウエテナンゴ県において、電力会社の電力供給停止及び水力発電所建設に抗議する住民による暴動が発生し、市長の監禁が監禁され、武装した１５０名の住民グループが水力発電を建設中の企業を襲撃し、設備や建機を破壊するとともに、銃器を発砲し、複数名の負傷者が出る事態となり、政府は国軍兵士１００名及び国家文民警察５０名の派遣により暴動が沈静化させるという事件が発生した。

（２）６月１７日、首都グアテマラ市においてサンフアンサカテペケスにおけるセメント工場建設反対を訴える３，０００人規模のデモが発生した。

（３）６月２０日、首都グアテマラ市の中でも比較的安全な地域と言われ、多くの邦人が居住する第１４区内の複数の場所で男４人組が銃を乱射して回るという事件が発生した。

（４）６月２３日、グアテマラ国内の各要所及び幹線道路において、農業支援の遅れを訴える農業従事者及びその賛同者が道路を封鎖し、交通を遮断するという事件が発生した。

（５）治安の悪さが大きな社会問題となるなか、現政権は軍と警察の連携を強化し、治安の低下が顕著なグアテマラ県を中心に治安回復作戦を進めており、統計上、犯罪件数は僅かずつ減少しているもの治安回復上の決定的な打開策とはなり得ていない。

（６）国家文民警察のデーターによると、２０１４年（１月～６月）の犯罪被害による死亡者数は２，３６９人（前年は２，７３６人、前年比１３．４％減）と統計上では僅か減少傾向にあるが、決定的な治安改善には至ってない。

（７）対日感情については良好である。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）国家文民警察の発表によると、第１四半期の当国における総犯罪発生件数は８，１６１件と前年第１四半期の８，９８８件と比較して９．２％の減少となっている。また、殺人件数は１，１８４件で、前年度第１四半期の１，３２６件から１０．７％の減少を記録したが、強姦事件は１７６件発生しており、前年同時期の１６２件から８．６％増加しており、第１四半期だけで米国人女性３名が強姦被害に遭い、当地米国大使館が自国民に緊急に注意を喚起する事態になる等、全般としては、依然として治安回復の兆しは見られない。なお、第１四半期における犯罪種別の内訳は以下のとおり。

殺人	１，１８４件（前年比	１０．７％減）
傷害	１，４０８件（	” ３．１％減）
強盗・窃盗	３，７３６件（	” １５．４％減）

強姦	1 7 6 件 (	"	8. 6 % 増)
誘拐	1 1 件 (	"	8. 3 % 減)
行方不明	1, 0 3 0 件 (	"	8. 3 % 増)
家庭内暴力	6 1 6 件 (	"	2 4. 2 % 増)

(2) 銃器の蔓延

当国では、銃器が容易に入手できるため、発砲事件も頻繁に発生しており、殺人、強盗、短時間誘拐の殆どに銃器が使用されている。国家文民警察の報告によると、第1四半期で治安当局が取り扱った殺人事件1, 184件のうち、銃器を使用した事件は972件(全体の82. 1%)、同じく傷害事件1, 408件のうち銃器を使用した事件は918件(65. 2%)に達しており、依然として邦人がこれら銃器を使用した犯罪に遭遇(巻き込まれる)する危険性は極めて高い。

(3) 邦人の被害事案

ア 5月19日、アルタベラパス県において、住宅敷地内に強盗が侵入し、資材を強奪されるという事件が発生した。

イ 5月26日、グアテマラ市第1区のバスターミナルにおいて、荷物を置いてバスを待っていたところ、荷物を丸ごと盗まれる事件が発生した。

(4) 邦人以外の被害事案(代表的事例のみ)

ア 4月5日、グアテマラ市第9区において外国人男性1名が強盗に遭い、その際に拳銃弾を5発被弾し死亡する事件が発生した。

イ 4月8日、エル・プログレソ県内主要幹線道路において、外国人旅行者5名が乗車した車両が襲撃され、所持金、クレジットカード、乗っていた車両を強奪される事件が発生した。

ウ 4月11日、ソロラ県において、バス強盗が発生し、乗車していた外国人医師及びその子供(1歳)が殺害されるという事件が発生した。

エ 5月26日、ハラパ県において、群衆にリンチに遭いそうになるという事件が発生した。この外国人は国家文民警察が取り囲んでいた群衆から、救出したため、危害を加えられることなく、無事であった。

オ 5月30日、グアテマラ市第14区において、外国人男性1名が銀行から出るところを強盗に遭い、負傷するという事件が発生した。

カ 6月5日、グアテマラ市第13区において、逃走する犯罪者と追跡する国家文民警察との間で銃撃戦になり、警察官1名が負傷するという事件が発生した。

キ 6月14日グアテマラ市第10区において男女2名が強盗に遭い、その際2名とも拳銃で殺害されるという事件が発生した。

ク 6月23日、グアテマラ市第14区の複数の場所において、男4人組が拳銃を乱射して回るという事件が発生した。この4人組は、逃走劇の末、国家文民警察に拘束された。

3. 誘拐・脅迫事件

(1) 資産家に限らず、一般市民や外国人がターゲットとなり、その大半は営利誘拐である。被害を届け出ても犯人に対する処罰や被害の補償を望めないばかりか報復される恐れもあり、犯人に身代金を支払い、警察に被害届を提出しないケースが多い。また、日本人（東洋系外国人）は一般的に裕福と見られているので、ターゲットにならないよう日頃から注意する必要がある。また日系企業も脅迫を受ける可能性は十分にある。

(2) 誘拐・殺害事件（事例）

4月8日、ビジャカナレス市の路上で何者かに殺害された男性が見つかるという事件が発生した。この男性は首都で飲食店を営んでおり、前日7日夜から行方不明になっていた。なお、治安当局が捜査中であるが、詳細は不明である。

4. 日本企業の安全に関わる諸問題

日本企業内において労働条件等を巡るストライキは発生していないが、引き続き各種社会運動の動向には注意を要する。また、インターネットの普及により急速にグローバル化が進み、ソーシャルネットワークを使用した予期せぬ示威活動が行われる可能性もあるので注意が必要である。（了）